

2016 オーラルフィジシャン・マルメ研修

中央歯科クリニック 笹村 ひかり

今回、このような素晴らしい機会を私たちに与えてくださった熊谷先生、マルメ大学の先生方、サポートしてくださった関係者の方々に心より感謝いたします。

研修に行く前までは、スウェーデンは予防先進国であり、修復物も少なく、国民の口腔に対する価値観が非常に高いというイメージを持っていました。しかし、スウェーデンでも、メンテナンスを受けない人や、治療を中断する人もいます。19歳までは無料で歯科医院に通っていたけれど、20歳から有料になると通わなくなる人もいます。治療に協力的な人もいるし、そうでない人もいます。スーパーマーケットでは色彩豊かなクッキー、グミ、キャンディー、チョコレートが量り売りされており、ジャム、ドライフルーツ、ケーキ、甘いパン、ジュースが長い陳列棚に所狭しと置かれています。味もとっても“甘い”のです。また、家族や友人や仲間と一緒にお茶をする **Fika** (フィーカ)。適度な休憩でメリハリがつき、コミュニケーションも図れる、とても素敵な慣習です。でも、甘い軽食を傍らに置いて食べる人が多いそう。この生活で何故カリエスが多発しないのか、とても不思議でした。だからこそ、今の国民の口腔健康に対する価値観は、自然と芽生えたわけでもなく、最初から価値観の高い人ばかりだったわけでもなく、スウェーデンの歯科医療従事者、そして国が協力して国民の歯を守る制度と習慣を創り上げたのだということが分かりました。

そして、小児期からの予防・メンテナンスの重要性を改めて感じました。

「私のいる地域では、歯科医院に来ると怖くて泣いてしまう子供が多いのですが、スウェーデンの子供たちはそういった子はいませんか」と質問した際、「少しはね。でも、下顎の乳前歯が生えてきた頃から歯科医院に来ているから、スウェーデンの子供たちは歯科医院を嫌なところだとは思わない子供が多いよ。痛くなってから歯科医院に来ると、“歯医者は痛いことをする場所だ”って子供たちは思ってしまうかもしれないね」という先生のお言葉には大変感銘を受けました。

幼児期から予防に対する教育を行うことで、大人・高齢者になっても健康を保ち続ける環境づくりにつながっていくのです。

今回の研修で、素晴らしい講師陣の指導を受けることができたこと、全国に同じ志をもつ先生方と出会えたことは何物にも代えがたい貴重な機会でした。日本とは仕組みも制度も異なりますが、場所は違えど、目的は同じです。私たち歯科医療従事者の大切な仕事は、歯を守ることの大切さを伝え、国民の意識を変えていくことだと痛感しました。

本当にありがとうございました。